

# 令和 2 年度

## 学校評価

### 自己評価書・学校関係者評価書



- A: 申し分ない取り組みが行われ、十分な成果を上げている。
- B: 必要な取り組みが行われ、改善に向けた成果を上げている、もしくは上げつつある。
- C: 改善に向けた取り組みが見られるが、成果が不十分である。
- D: 直ちに改善を図らなければならない様子が見られるが、改善に向けた取り組みに着手できていない。

大川村立大川小・中学校

| 項目 1                 | (知)教育課程・学習指導(かしこく)   |  |  |                   |
|----------------------|--|--|--|-------------------|
| 学校教育目標               | 大川村に夢と希望と感動を!  |  | 自己評価   |                   |
| 中長期経営目標              | 少人数学習を生かしたきめ細やかな小中一貫教育の充実  |  | 前年度  | B                 |
| 短期経営目標               | 確かな学力の定着と向上  |  | 本年度  | B                 |
| 評価項目(目標達成に向けた具体的な取組) |  | 達成基準   | 達成状況 <具体的取組の自己評価>  |                   |
| 1                    | <b>【学力向上】</b><br>○研究主任から大川小中授業スタンダードを全教員に示し、児童同士で主体的・対話的に学び合えるようにする。<br>○全教員が授業内容の定着を図るために振り返りを行う。(学習内容、感想、定着問題)<br>○毎時間の授業評価を生徒自信で行う。<br>○加力学習(ステップアップタイム)を年間を通して実施して基礎学力の定着や各種検定にチャレンジさせ学ぶ楽しさにつなげる。<br>○児童が「何ができるようになったか」を教員は理解して授業の工夫や改善をする。<br>○教員の言葉遣い等を見直し、否定したり、叱るより認めて褒める。 | ○県学調(全国比)小中共に全学年+5P<br>○CRT(全国比)小中共に全学年+5P<br>○「授業がわかる」小中共に90%以上 | ○県学調(全国比)小4国+6.1、算+7.0 小5国-3.6、算+4.8、理+1.4、中1国+6.7、社-0.4、数-2.0、理-1.6、英+10.9、中2国+3.1、社-0.9、数-7.7、-0.4、英+1.4となっている。+5Pを達成できたのは小4国・算、中1国・英だった。<br>○CRTは小2~4年は国算、5年は国算理、6年・中1は国算(数)理社、中2・3は国数理社英を実施している。全国比+5Pを達成できたのは、小2国+10.3、算+6.4、小3国+17.1、算+21.8、小6国+7.9、社+10.8、算+18.4、理+11.1、中3国+6.8、社+6.6、数+13.6、理+6.9、英+11.1である。<br>○学校生活アンケート6月と11月の2回実施。「授業が分かる」肯定的回答小学校100%、中学校は71%であった。中学校では29%(4人)が否定的回答となっていた。 | 自己評価 C<br>関係者評価 C |
| 2                    | <b>【コミュニケーション】</b><br>○発表集会、のびのびタイム、地域の行事への参加、生活総合学習等の取組を通してコミュニケーションを主体的に楽しむ。   | ○コミュニケーションアンケート「自分の考えや意見を他の人に伝えることが得意」小中共に目標80%以上                | ○コミュニケーションアンケートの「自分の考えや意見を他の人に伝えることが得意」について、肯定的回答が小学校100%、中学校81%で小中ともに目標80%を達成した。  | 自己評価 A<br>関係者評価 A |
| 3                    | <b>【ICT】</b><br>○ICTを活用し、わかる楽しいと感じさせる授業の工夫や改善を全教員で取り組む。<br>○留学センター生は家庭学習時間の制約があるため、1学期中に量を見直す。   | ○ICT活用アンケート(伝えられる)小中共に90%以上<br>○ICTを活用した家庭学習の充実を小中共に90%以上        | ○ICT活用アンケートの「タブレットを使うと自分の考えや意見を分かりやすく伝えられると思いますか」で、肯定的回答が小学校83%、中学校67%で、目標90%を達成できなかった。<br>○ICT活用アンケートの「タブレットを使っでの家庭学習に関する設問」6問の肯定的回答の平均が、小学校73.7%、中学校が35.6%で、目標の90%を達成できなかった。<br>○「家庭学習のしおり」で提示している学習時間が充足していないことから、留学センター生の家庭学習時間の見直しについて、部活動のある日は70分(+10分)、ない日は90分(+30分)に増やした。また、希望者については延長して学習できる体制を作った。   | 自己評価 B<br>関係者評価 B |
| 改善方策                 | <b>【学力向上について】</b><br>・各学年の学習内容の定着を学期ごと等定期的に確認する体制を作り、学年ごとの定着がしっかりできるよう取り組む。<br>・授業改善のための教員研修を充実させる。<br>・個人差も大きいので、一人一人にきめ細かな指導をする。(加力など)<br><b>【ICTについて】</b><br>・ICTを活用した伝える場の設定、改善の工夫をする。   |  | 関係者評価講評<br>ICT活用をした授業で学力向上につながったと測れる指標的なものを明確にしてはどうか。タブレットを活用することに慣れて飽きが出てきている現状もあるということなので、新たな取組、教員の指導スキルの向上が必要である。低学年からやってきたことが中学校でも継続した取組になるように。学力向上については、教科担任に子どもの声が届くように。学調では一定の成果が出ているが、日々の授業や定期テストの結果、成績も子どものモチベーションにつながっていくので大事。きめ細かな指導と明記しているため、きめ細かな指導をお願いしたい。<br>留学生については、個人差もあるだろうが、前年度の学校の時とどうだったのかといった検証も必要ではないか。それで伸びていけば、成果ありとも考えられる。  |                   |

| 項目2                  |   | (徳)心の教育(やさしく)  |   | 評<br>定   | 自己評価 | 関係者評価 |
|----------------------|---|--|---|--|------|-------|
| 学校教育目標               | 大川村に夢と希望と感動を!   |  |   |  |      |       |
| 中長期経営目標              | 豊かな心の育成   |  |   | 前年度  | B    | B     |
| 短期経営目標               | 思いやる心を言葉や行動で表し、自尊感情の高い子どもや共に伸びる仲間集団の育成  |  |   | 本年度  | B    | B     |
| 評価項目(目標達成に向けた具体的な取組) |   | 達成基準   |   | 達成状況 <具体的取組の自己評価>  |      |       |
| 1                    | 【道徳教育】<br>(小中共通)<br>・全教員による道徳授業の実施  | (小)道徳アンケート(肯定的評価):全項目90%以上<br>(中)道徳アンケート(肯定的評価):4「自分には良い所がある」5「将来の夢や目標をもっている」8「学校の規則を守る」10「社会人で地元や高知県に貢献」全て90%以上 | (小)…道徳アンケート(全10項目)で肯定的回答90%以上は5項目だった。他の5項目は83%であったので、継続して道徳授業の充実を目指す。<br><br>(中)…道徳アンケート(全10項目)で、肯定的回答が項目4が57.1%、項目5が92.9%、項目8が100%、項目10が64.3%であった。項目5と8が目標を達成しており、項目4と10が未達成である。   | 自己評価   | B    |       |
|                      |   |  |   | 関係者評価  | B    |       |
| 2                    | 【生徒指導の充実・いじめ防止】<br>・学期に1回の学校生活(いじめ)アンケートの実施<br>・hyperQU年2回実施 ・相談体制の充実<br>・特別な支援を要する生徒を含む生徒理解のための定期的な支援会の実施<br>・SCの定期的な面談 SSWの効果的な関わり  | (小中共通)<br>・学校評価アンケート(肯定評価):「学級が楽しい」児童生徒・保護者100%<br>・いじめ発生0、解消率:100%<br>・Q-U要支援群児童:0                              | ○学校評価アンケートで、「学校が楽しい(楽しそう)」の肯定的回答が、児童生徒89%、保護者96%であった。小中別にみると、児童は100%、生徒は80%、保護者は、小学生の保護者100%、中学生の保護者93%だった。<br>○いじめ発生は(小)2件、(中)3件。小学校の1件は指導中で、他は解消済なので、解消率は80%。<br>○Q-Uは5月と11月の2回実施。要支援群は小・中ともに0であった。<br>○SC,SSWは全児童生徒への個別面談を1回ずつ実施し実態把握に努めた。また、SSWIは留学センターを2回訪問し関わりを深めた。 | 自己評価   | B    |       |
|                      |   |  |   | 関係者評価  | B    |       |
| 3                    | 【図書・読書活動】<br>(小中共通)<br>・読書習慣による豊かな心の育成を目指し、読み聞かせ(地域の方、保小中連携)や授業で図書の活用や朝読書の貸し出しを行う   | (小)<br>図書貸出数一人あたり(低・中)100冊以上、(高)50冊以上<br>(中)<br>図書貸出総数200冊以上   | ○図書の貸し出し冊数について<br>(小)年度末に達成基準に達するのは、50%程度になると思われる。コロナによる休業等により、貸出冊数は伸び悩んだ。県立移動図書の貸し出し冊数は202冊である。<br>(中)12月末時点で図書室の本の貸出総数は99冊だが、県立移動図書での貸し出し冊数は137冊である。<br>○保小中連携による読み聞かせは、小3・4年生の保育交流、小2のおいもパーティー、中3家庭科の保育実習で行った。児童生徒、園児にとって楽しい時間となった。                                    | 自己評価   | B    |       |
|                      |   |  |   | 関係者評価  | B    |       |
| 改善<br>方<br>策         | 【道徳教育について】<br>・自尊感情の向上につながる取組をする。(縦割り班の活用など)<br>【生徒指導の充実・いじめ防止】<br>・SC,SSWを効果的に活用した生徒指導の充実を図る。<br>【図書・読書活動】<br>・図書の貸し出し冊数について、低学年と中学年では読む本の内容が変わってくることもあり、学年の発達段階に応じた冊数の設定をする。(低学年100冊、中学年70冊、高学年50冊など) |  | 関係者<br>評<br>価<br>講<br>評   | 図書について、図書室からの貸し出し数だけでなく、他に読書を進んでしている子どももいるので、指標の仕方についても考えてみてはどうか。<br>自尊感情の向上につながる取組を継続して行ってほしい。<br>児童生徒に対する関わり方(声のかけ方など)、その子に対してベストな接し方を模索しながら、支援していくこと。<br>指導者の公正公平な姿勢は大事だろう。 |      |       |

令和2年度 大川村立大川小・中学校 自己評価書(項目別評価表)

No.3

| 項目3 (体)健康・体力(たくましく)  |  | 評<br>定  | 自己評価  | 関係者評価  |
|----------------------|--|---|---|--------|
| 学校教育目標               | 大川村に夢と希望と感動を!  |   |   |        |
| 中長期経営目標              | 健やかな体の育成   | 前年度   | B   | B      |
| 短期経営目標               | よりよい生活リズムや運動習慣を身につけ、体力と技能の向上   | 本年度   | B   | B      |
| 評価項目(目標達成に向けた具体的な取組) |  | 達成基準  |   |        |
| 達成状況 <具体的取組の自己評価>    |  |   |   |        |
| 1                    | <b>【健康教育】</b><br>(小中共通)<br>○保小中の生活調べを年2回実施する。結果は通信で発信する。<br>○生活リズムの学習を実施する前後に行う。<br>・学校評価アンケート「生活リズムをに気をつけ、規則正しい生活をする」90%以上<br>○保護者への啓発便り・評価表              | (小中共通)<br>○学校評価アンケート「生活リズムに気をつけ、規則正しい生活をする」90%以上を目指す。   | ○学校評価アンケート「生活リズムに気をつけ、規則正しい生活をする」の肯定的回答は、児童生徒で81%、保護者で72%であった。<br><br>○生活リズム調べは年2回、保小中で取り組んでおり、結果については保護者向けのお便りを配布して、生活リズムの重要性について啓発している。また、小中学生については結果を個別のシートを作成して啓発している。また、タブレットを活用して夏休み中に2回、生活リズムが乱れないよう日々の記録を提出させ、養護教諭がコメントを返す取組を行った。               | 自己評価 B |
|                      | 関係者評価<br>B   |   |   |        |
| 2                    | <b>【運動能力】</b><br>(小中共通)<br>○体力づくりの充実<br>・体育授業(中学校は部活動含)で年間を通して、計画的な体力づくりを行う。<br>・全国体力運動能力調査結果が男女ともに体力合計点が全国値を上回る。  | 健やかな体の育成<br>・(小)全国体力運動能力調査<br>男・女:体力合計点が全国値を上回る。<br>(中)男子:全種目全国値を上回る。<br>女子:8種目中4種目を全国値を上回る。<br>・水泳大会・マラソン大会・運動会など体育行事に向けた取り組みで体力向上を図る。 | ○全国体力運動能力調査はコロナの関係で実施されなかったため、全国値との比較はできないため、全校児童生徒が実施した新体力テスト(8種目)の結果について記載する。<br>(小) A判定…4人、B判定…6人、C判定…2人、D判定…0人<br>(中) A判定…2人、B判定…3人、C判定…4人、D判定…5人<br><br>○コロナ禍の中、学校行事(体育的行事)は、水泳大会、運動会、マラソン大会と実施することができた。それぞれに向けた取組により、体力の向上を図った。                   | 自己評価B  |
|                      | 関係者評価<br>B   |   |   |        |
| 改善<br>方<br>策         | <b>【健康教育】</b><br>・生活リズムについて、保護者の啓発をタイムリーに行っていく。<br>・児童生徒については、自律心を育成する教育活動を行う。<br><b>【運動能力】</b><br>・各種目のうち、点数が低いもの(ボール投げ、シャトルラン)について、授業や部活動、日常生活で積極的に取り組む。 | 関係者<br>評<br>価<br>講<br>評   | ボール投げ、シャトルランなど現代社会の影響もあるだろう。昔はボール投げをして遊んでいた。乗り物に乗る環境で持久走も落ちる。ボールを投げる取組にしても肩を慣らしておかないと痛める。サッカーをしていることが多い。その環境の中で、どう指導していくか。生活リズムについては保護者への啓発を継続しておこなっていく。体力面については、子どもたちのアンケート結果からも「のびのび」を増やして欲しいとあるので、遊びの中で子どもの体力を伸ばしていくと良いのではないかと。それが、自尊感情の育成にもつながっていく。 |        |

| 項目 4                 | コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を活用した特色ある学校づくり  |  | 自己評価  |                   |         |
|----------------------|---|--|---|-------------------|---------|
| 学校教育目標               | 大川村に夢と希望と感動を！   | 評  |   |                   | 関係者評価   |
| 中長期経営目標              | よりよい学校を通してよりよい大川村を創る  | 定  | 前年度   |                   |         |
| 短期経営目標               | 学校と地域が協働・連携によるチーム大川で、教育活動を充実させる   |  | 本年度   | A                 | A       |
| 評価項目(目標達成に向けた具体的な取組) |   | 達成基準   |   | 達成状況 <具体的取組の自己評価> |         |
| 1                    | 1 学校運営協議会の開催と充実<br>2 PTA活動の充実<br>3 学校だよりCSだよりの発行、HPの充実<br>4 地域の伝統芸能保存活動支援<br>5 地域と学校が合同防災訓練<br>6 キャリア教育支援<br>7 生活・総合学習の支援<br>8 部活動の支援<br>9 生産学習への協力<br>10 食育支援<br>11 学校図書ボランティア活動<br>12 放課後子ども教室への支援<br>13 児童生徒との意見交換会の実施<br>14 義務教育学校に向けた特色ある学校づくりを推進するための体制整備 | 1 年間6回の学校運営協議会の開催(全教員との協議1回以上)<br>2 学校行事への協力と環境の整備・愛校作業(年間2回)、運動会、校内マラソン大会の補助<br>3 学校だよりの13回以上発行、CSだより月1回の発行及びHPの更新<br>4 謝肉祭で「花取り太刀踊り」を全児童生徒で披露できるよう保存会に指導を依頼する<br>5 村防災総合訓練に参加する<br>6 職場体験を地元の事業所に依頼する。事後には成果等の発表会を開催する<br>7 生活科、総合的な学習を深めるために地域の方から学ぶ<br>8 バドミントン部への技術的支援<br>9 梅、お茶、椎茸の生産や販売の支援<br>10 地元の食生活改善推進員による食育への支援<br>11 朝読書に地域の方の読み聞かせを月1回実施<br>12 放課後子ども教室でスポーツ、伝統芸能活動支援<br>13 学校運営協議会で児童生徒と意見交換会を1回以上行う<br>14 先進的な義務教育学校の視察及び学習会の実施 | 1 第2回については、教職員と協議会委員が3つのグループ(総合・特産物・保小中)に分かれ、ワークショップ形式で年間の活動について確認し、共有することができた。<br>2 愛校作業の参加者6月123人、8月109人。運動会ではコロナ対策として受付の協力をしていただいた。マラソン大会では、交通安全に7名、一般ランナーとして5名が参加があった。<br>3 学校だよりは13回以上発行を達成した。CSだよりは3月末までに8号発行予定。(現在5号) HPの更新は1月15日現在で公式HPが173回、会員制HPが354回となっている。<br>4 謝肉祭は中止となったが、伝統芸能「花取太刀踊り」をキラキラフェスティバルで発表した。練習には保存会の方々に4回来ていただいた。<br>5 6月25日の村防災訓練に参加し、地震を想定した避難訓練、煙ハウス体験、消火訓練を全校で行った。<br>6 職場体験は7月20日、21日の2日間、中学2年生7名が5事業所で実施した。(JA、つぼみ保育所、役場、森林組合、むらびと本舗) 実施後、9月30日に職場体験発表会を行った。3事業所より参加があった。<br>7 生活科・総合的な学習にゲストティーチャーとして計16の個人・団体の協力を得て学習を深めることができた。<br>8 バドの技術支援に8名の地域の方々が協力してくれた。<br>9 特産物について、茶畑の下草刈りや剪定、茶煎り、梅の販売(ふるさと小包)、しいたけの栽培場所の整備などで地域の協力を得た。<br>10 食生活改善推進員による食育の取組は2回実施した。1回目は8月の愛校作業時の啓発活動。2回目は1月18日5・6年生家庭科での防災食。<br>11 毎月第2水曜日、朝8:10~15分間程度、地域ボランティアによる読み聞かせを実施している。小は毎月、中は学期に1回。コーディネーターが季節に合った本選びをしていている。<br>12 放課後子ども教室では、バドミントン、太鼓、昔遊び、花取太刀踊りなど、様々な活動支援をしていただいている。<br>13 第4回学校運営協議会で児童生徒との意見交換会を実施した。地域の方から挨拶についてアドバイスがあり、児童生徒会は今後あいさつ運動に力を入れていくことになった。<br>14 先進校の大原学院について、第3回学校運営協議会で事前学習会を実施した。コロナの感染拡大により視察は延期となっている。 | 自己評価 A            | 関係者評価 A |
| 改善<br>方策             | 今後も地域と連携しながら、継続、発展をさせていきたい。   | 関係者<br>評価<br>講評  | あいさつについては行事の時だけでなく、日頃からできるように。<br>マスク生活が続いているので、子どもたちの顔がわからない。これからこのマスク生活が今後も続くとしたら、写真を撮るとか、顔名札など工夫をしていくような取組をしていくと良いかもしれない。<br>総合的な学習についてはある一定の型はできているので、あとは質を高めていく。学校と地域の差異があるのは当然なので、そこから発展し先につなげていく。これから義務教育学校に向けてより地域との連携を。  |                   |         |